

ROKEN いばらき

第60号

2022.2.1

一般社団法人 茨城県介護老人保健施設協会



目次 Contents

茨城県立カシマサッカースタジアム

- 会長あいさつ 2
- 理事あいさつ 2
- 茨城県長寿福祉課 課長あいさつ 3
- 功労者・永年勤続表彰〔受賞者あいさつ、受賞者一覧〕 4・5
- **特集 高齢者施設が直面する感染症** 6・7
- 企画1 レポート＝科学的介護情報システム（LIFE）取り組みと課題 8
- 企画2 令和3年度 職種別専門委員会 事業（研修）実績 9
- スタッフからの一言〔いちご苑・はあとぴあ〕 10
- **特別寄稿 歌手 城南海さんからのメッセージ
～祖父祖母とすごした大切な時間** 11
- みんなの広場〔サンフラワー東海・シルバービレッジ・ひたちの森ハピネス・さくらがわ〕 12

会長あいさつ



一般社団法人
茨城県介護老人保健施設協会
会長 大場 正二

新年明けましておめでとうございます。本年も皆様にとりまして実り多き一年になりますようお祈り申し上げます。さて、皆様は新年にあたって今年目標や抱負をお決めになった方も多いかと思えます。きっと、努力のし甲斐があったり、はたまた、達成に向けたプロセス自体にやりがいや楽しみを感じるものであったりすることと思えます。

ところで、皆様は時に仕事の目的を改めて問われることがありませんでしょうか。またはご自身で考える機会でもかまいません。年初めに求められることが多い目標や抱負などは案外、思いついたり決められるものですが、仕事そのものの目的を問われると少し戸惑うものです。人によっては、仕事の目的を問われても直ぐさま、回答できる方もいるかと思えますが、大抵の方は、答えをだすのに時間を要すのではないのでしょうか。仕事の目的は、個々に様々あり、一人ひとつとは限らず、複数持ち合わせていたり、さらに年齢や時間の経過、環境によって変わることもあるかもしれないからです。

ある方が、仕事の目的について仰っていたのは「起きる色々なこと、遭遇する様々な場面、困難や成功など、経験する全てのことを味わい深いものと感じたり、少しでも味わい深くすること自体が目的です」これは説法でもなく、その方の実感から湧き出た言葉なのでしょう。きっと人生の目的になぞらえたのかもかもしれません。

また、ある方は、仕事の目的を「一日一生」と似て非なものとして表現しています。これも人生の目的を深みあるものとするに当てはめた言葉なのでしょう。皆様もご活躍するなかで日々ご多忙であったり、事が上手くいかないことも多いかと思えます。そんな時、ちょっとだけ、頭の中身をゆっくりと回転させてみてはいかがでしょうか。きっとこれも味わい深くなる一つの要素であると思えるはずですよ。

目的について少しだけ感じていることをお話しましたが、目標は、目的を目指すための手段や道程のマイルストーンになったり、さらに数値化された行動目標は客観的に達成を測るツールと捉えることが大切なのかもかもしれませんね。

末筆となりますが、今年も色々なことがあろうかと思えます。どうぞ、皆様が味わい深い一年になりますよう、あらためてエールを送らせていただきます。

理事あいさつ



一般社団法人
茨城県介護老人保健施設協会
理事 監物 久夫

私は、「サンライズ湊」（ひたちなか市）に平成18年より勤務し、平成27年より茨城県介護老人保健施設協会（老健）の理事を務めております。

老健は専門職種別の各委員会や研修会、機関誌の発行など数々の事業を行っていますが、なかでも最も重要な事業の1つは毎年開催される研究発表会だと思います。老健施設のあらゆる分野の人達、すなわち、医療・看護・介護・リハビリ・栄養は勿論ソーシャルワーカーや事務に関わる人達が参加し、広範囲にわたって様々な発表がなされるため老健施設のいろいろな課題が浮き彫りとなり大変勉強になる素晴らしい集会です。それぞれの発表からは入所者や利用者のために工夫・改善しようとする熱意がひしひしと伝わってきます。

研究発表会では、私は以前から座長を依頼されてきました。座長を引き受けた当時は、研究発表の後になされる質疑応答が、そのセッションの演題のすべての講演が終了してから一括して行われました。このやり方は時間が節約でき、時間内にそのセッションを終了させるのには良いですが、1つのセッションで5~6題の発表が行われるため、既に発表が済んだ演題の討論に際して、その内容を思い返すのに時間がかかります。私がこれまでに経験してきたいろいろな学会では、通常、その演題の講演終了後直ちに演題毎に質疑応答があり、討議がなされてきました。

平成24年に大場正二会長が学術委員長に就任された際に、演題発表毎に1題1題質疑応答を実施しても良いとの許可を頂き、私は第20回の研究発表会からはそのやり方に変更しました。翌年からはこうしたやり方を探る座長が少しずつ増加してきました。

研究発表会は、老健施設に勤務するすべての人にとって非常に有意義であり、今後も向上・発展・継続させていければと思っております。これからも理事として老健のお役に立てるよう努力したいと思いますので、ご指導ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願いいたします。

茨城県長寿福祉課課長あいさつ

茨城県保健福祉部
長寿福祉推進課
課長 磯崎 聡



あけましておめでとうございます。

茨城県介護老人保健施設協会会員の皆様方には、日頃から高齢者保健福祉の向上並びに介護保険制度の円滑な運営に加えて、今般の新型コロナウイルス感染症対策に多大なご尽力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

さて、我が国は世界に例のないスピードで高齢化が進んでおり、本県におきましても昨年7月時点で、県人口に占める高齢者の割合が30%を超えるに至っております。

今後、高齢者人口は2040年の約3,900万人がピークと予測されておりますが、その後も75歳以上の方が総人口に占める割合は増加し、医療や介護へのニーズはさらに増していくことが見込まれております。

このような中において、介護老人保健施設は、医療機関と在宅とをつなぎ、「地域包括ケアシステム」において極めて重要な役割を担っているところであります。引き続き、システムが機能し、十分に効果を発揮できますよう、各施設のご協力をお願いいたします。

また、令和3年の介護報酬改定では、各介護保険事業所に対して、「事業継続計画」(Business Continuity Plan: 以下、BCP)の策定が義務付けられております。

BCPは、今般の新型コロナウイルス感染症をはじめとする新興感染症や、台風・地震などの自然災害が発生した場合にあっても、施設において、利用者に必要な介護サービスを継続して提供していく体制を構築するために重要となりますので、速やかな計画策定をお願いいたします。

また、新型コロナウイルス感染症については、これまで、陽性者発生時の迅速な検査や、施設内療養等でご協力をいただいていたところですが、平常時から感染予防を徹底していただき、ウイルスを「持ち込まない」、「拡げない」といった対策についてもご協力をお願いいたします。

結びに、今後とも本県の高齢者保健福祉行政の推進にご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、貴協会の益々のご発展をご祈念いたします。

お知らせ

★ 「令和4年度介護福祉士国家試験対策講座の開催」主催 看護・介護専門委員会

申込み開始	令和4年4月中を予定
開催日程	令和4年8月～12月 全6回(1回あたり2時間30分)
開催形式	リモートによる受講
受講費用	全6回参加でセット料金 3,000円

※令和3年度に全4回開催致しました同講座を、4年度は全6回に内容を充実させ開催します。振るってご参加頂ければと存じます。今後も会員施設の皆様に役立つ取り組みをしまりますので引き続きご支援の程よろしくお願い申し上げます。

看護・介護専門委員会 委員長 角田浩二

★ 老健いばらき60号別冊「全会員施設カタログ」発刊のご案内

発刊形式	・冊子(バインダー式、A4版 差替え可能) ・茨老健ホームページ掲載(A4版 データ変更可能)
掲載形式	・1施設 A4サイズ 2ページ 全カラーページ ・冊子にQRコード、茨老健ホームページは各施設にリンク可能



※発刊とデータUP予定日は、「令和4年4月」です。

広報委員会記念号制作チーム

功労者表彰および永年勤続者表彰

功労賞受賞にあたり



介護老人保健施設エバーグリーン
介護士 浦橋 智恵子

平成8年にエバーグリーンに入職し、勤続25年を過ぎました。25年という長い勤めも振り返るとあっという間に過ぎた想いがあります。

今まで大変なことも沢山ありましたが、ここまで仕事をさせていただくことが出来たのも、施設長をはじめ諸先輩方、そして支えて下さった同僚の皆様のお陰と心より感謝しています。

まだまだ沢山の経験と勉強が必要な私ですが、これからも入所者様に寄り添い多くの笑顔が見られるよう努めていきたいと思っています。そして自身も笑顔を忘れないという事を心掛けて仕事に励んでいきたいと思っています。当たり前のことだと思いますが、これまではつい忘れてしまうときが多々ありました。入職した時の初心を忘れず当たり前の事を当たり前でできる介護士でありたいと思います。これからも入所者様やスタッフとの関りを大切にして感謝の気持ちと笑顔を忘れることなく、信頼される介護士になれるよう日々努力してまいります。

ありがとうございました。

永年勤続表彰受賞にあたり



介護老人保健施設つまさと
支援相談員 森谷 義朗

この度は、永年勤続者として表彰して頂き、誠にありがとうございます。

介護老人保健施設つまさととは平成9年に開設、私は翌年の平成10年に入職し、勤続23年目になります。入職時の職種は栄養士。今とは全く違う職種からのスタートでした。

最初の頃は分からない事が多く、施設長から休み時間に管理栄養士の資格取得の講義や問題の解説をしていただいたのを思い出します。おかげで管理栄養士に合格。仕事をしながら行う勉強のコツや達成感を得る事が出来ました。それから衛生管理者1種、介護支援専門員、社会福祉士の資格取得を通して、様々な視点を学ばせていただきました。現在は支援相談員として働き、ご利用者様の入退所に関わらせて頂いております。ここまで続けられたのは施設長を始め、諸先輩方のご指導のお陰と感謝致しております。

この2年、新型コロナウイルス感染症の感染拡大で面会がままならない中、11月から直に会う短時間の面会が可能になりました。ご家族と久しぶりに会うご利用者様の様子は笑顔にあふれ、新ためて笑顔を見る機会が少なかったのだと思いました。

老健施設はリハビリ施設、在宅復帰施設、地域を支える施設。様々なケースでご利用になるご利用者様、ご家族様を支えながら、笑顔にさせる職員として今後も努力していきたいと思っています。受賞を通して振りかえる事が出来ました。ありがとうございました。

※受賞のみなさま、誠におめでとうございます。

功労者表彰受賞者一覧票 16名

施設名	職名	氏名	勤続年数	施設名	職名	氏名	勤続年数
エバーグリーン	介護	浦橋智恵子	25年	シルバービレッジ	管理栄養士	吉成 幸子	25年
おおあらい	看護	山口 千秋	16年	日立南ヘルシーセンター	理学療法士	井部 馨	15年
大宮フロイデハイム	看護	篠田 浩子	18年	プエプロ稲敷	相談員	市村 原平	12年
ごぎょうの里	介護	岡本 裕美	23年	平成園	介護	長谷川 緑	30年
コミュニティーケアセンター縦山	介護	重藤 博	10年	マカベシルバートピア	支援相談員	染谷 照子	16年
サングリーンやさと	介護	萩原 千章	13年	みがわ	理学療法士	笠原 鉄聡	14年
さざんか荘	看護	片岡 敏枝	10年	みなと苑	看護	大谷 陽子	15年
シニア健康センターしおさい	相談員	照沼 純子	23年	レイクヒルひぬま	看護	山田 実	21年

老健いばらき

永年勤続者表彰受賞者一覧票 111名

施設名	職名	氏名	勤続年数	施設名	職名	氏名	勤続年数
いちご苑	介護	長山 幸恵	10年	つくばケアセンター	介護	中久喜有希	11年
いちご苑	介護	鈴木 米子	10年	つくばケアセンター	介護	旭 恵理奈	10年
いちご苑	介護	渡邊 幸子	10年	つくばケアセンター	介護	大西 雄飛	10年
エパーグリーン	介護	吉原 京子	10年	つまさと	支援相談員	森谷 義朗	22年
おおあらい	介護	宇留野 裕	16年	つまさと	事務	島田 圭子	13年
大宮フロイデハイム	介護	木村 光子	12年	つまさと	介護	河内 忠文	18年
かすみがうら	看護	古川 正枝	11年	つまさと	看護	広木 雅子	18年
かすみがうら	看護	木村 正代	11年	つまさと	介護	鯉淵 智也	18年
協和ヘルシーセンター	介護	軽部 麻依	11年	つまさと	看護	久保田節子	17年
協和ヘルシーセンター	介護	砂岡 智子	11年	つまさと	介護	江幡 克也	16年
くじらヶ丘	介護	萩谷 隆司	11年	つまさと	介護	小坏 輝明	15年
くじらヶ丘	介護	緑川 清美	10年	つまさと	介護	新妻 正浩	14年
くじらヶ丘	介護支援専門員	持丸 順一	11年	つまさと	介護	瀧 真季	12年
くるみ館	介護	滝田 幸代	11年	つまさと	介護	栗原 春行	13年
くるみ館	介護	鶴井 麻貴	10年	博純苑	介護	岡本 真弓	16年
くるみ館	介護	菊地 翔太	10年	博純苑	介護	高橋恵美子	15年
くるみ館	介護	山北 紗也	10年	博純苑	介護	蛭田 隆太	14年
くるみ館	介護	砂川 卓哉	10年	博純苑	介護	上坏 育美	14年
くるみ館	介護支援専門員	鈴木 香里	11年	はすみ敬愛	介護	河井 明美	11年
くるみ館	介護支援専門員	兼田 茂二	10年	はすみ敬愛	介護	深澤ゆかり	11年
くるみ館	支援相談員	大金 香織	10年	はすみ敬愛	介護	永田 幸子	11年
くるみ館	理学療法士	竹内 千春	10年	ブラタナスの丘	介護	中崎 靖子	10年
くるみ館	調理師	高安 友香	10年	ブラタナスの丘	介護	井上 康子	10年
ごぎょうの里	介護	根本 幸子	13年	ブラタナスの丘	介護	岡田 直子	10年
ごぎょうの里	看護	野口 陽子	12年	プロスペクトガーデンひたちなか	調理師	柿沼 貴宜	10年
【こすもびあ】	看護	飯田 善博	10年	マカベシルバートピア	介護	海老原智恵子	10年
【こすもびあ】	介護	栗原 直文	10年	マカベシルバートピア	介護	遠藤 寿哉	10年
コミュニティケアセンター縦山	看護	大内 猛宏	16年	まくらがの郷	(管理) 栄養士	松本 茜	10年
サングリーンやさと	介護	久保田智美	10年	まくらがの郷	(管理) 栄養士	染谷 慶子	10年
サングリーンやさと	介護	川辺 洋子	10年	みがわ	介護支援専門員	山崎 知明	16年
サングリーンやさと	介護	藤井 元明	10年	みなと苑	介護	福田 典子	14年
サングリーンやさと	介護	宮原 正樹	10年	みなと苑	介護	野沢 美希	17年
サングリーンやさと	看護	柏原 一謙	10年	みなと苑	介護	片野 祐太	12年
サングリーンやさと	介護支援専門員	高橋勢津子	14年	もえぎ野	看護	加藤ふみ子	10年
さくらがわ	介護	鈴木 博子	11年	もえぎ野	介護	染谷みゆき	10年
さくらがわ	介護	小関 政典	11年	もえぎ野	介護	桜井 由裕	10年
さざんか荘	介護	長堀佳代子	11年	もえぎ野	介護	樽井富美江	10年
さざんか荘	介護支援専門員	来栖ゆかり	10年	もえぎ野	介護	槻館 淳	10年
シニア健康センターしおさい	支援相談員	白井 麻美	10年	もえぎ野	介護	柿沼 麻実	10年
シニア健康センターしおさい	事務	滝田 純子	10年	もえぎ野	介護	菊地 涼子	10年
シルバービレッジ	介護	鈴木 修	10年	もえぎ野	理学療法士	佐久間亜矢	10年
しろかね	介護	小川久美子	17年	もえぎ野	理学療法士	石塚 紀子	10年
しろかね	介護	奈良沢恭代	17年	もえぎ野	事務	横田 親治	10年
しろかね	介護	廣瀬 幸子	17年	梨花苑	看護	白石 久子	10年
しろかね	事務	古屋 和子	17年	梨花苑	介護	江口 清子	11年
春秋園	介護	奥岡久美子	10年	梨花苑	介護	富倉 まち	10年
春秋園	介護	藤田さおり	10年	リヒトハウス北浦	看護	内田 加奈	10年
春秋園	作業療法士	村田 倫子	19年	リヒトハウス北浦	看護	鈴木とも子	10年
春秋園	看護	黒木 良枝	20年	レイクヒルひぬま	看護	川崎 栄子	21年
春秋園	作業療法士	奥山 麻里	21年	レイクヒルひぬま	看護	高島 弘子	16年
春秋園	理学療法士	福田久美子	21年	レイクヒルひぬま	介護	伊野 滋	20年
春秋園	看護	山崎 史子	31年	レイクヒルひぬま	介護	藁科 敦	21年
スーペリア360	介護	佐々木豊子	10年	レイクヒルひぬま	介護	正木 恵子	20年
スーペリア360	介護	斉藤 幸代	10年	レイクヒルひぬま	介護	櫻井 香織	21年
スーペリア360	介護	進藤 正義	10年	茨老健水戸事務局	事務	矢内のり子	10年
スーペリア360	介護	石崎 達也	10年				

特集

専門家による新型コロナウイルスの考察



茨城保健生協
国立感染症研究所客員研究員

大前 比呂思

高齢者施設が直面する感染症

—新型コロナウイルスの克服—

略歴

1985年筑波大学を卒業、内科研修の後、筑波大学博士課程で熱帯地方の感染症の国際的対策で学位取得。その後、名古屋大学病院と関連病院での腎臓内科研修を経て、1994年から国立国際医療センター（現国立国際医療研究センター）内科。その後、筑波大学医学系（感染症）を経て、2015年に国立感染症研究所室長を早期退職。現在は、茨城保健生協に勤務。

1 感染症に対して高齢者施設が持つ弱さ

感染症の病態には、免疫力も大きく影響しますが、一般的に言って高齢者の免疫力は、青壮年に比べかなり低下しています。従って、同じ病原体に感染しても、高齢者の重症化リスクは、若年者より高いことが殆どです。ただ、高齢者であっても、以前その感染症にかかって回復した経験がある場合や、ワクチンで免疫を得ている場合は、感染したとしても無症状や軽症で済むことがあります。

免疫力が低下している高齢者が共同生活を営む施設では、従来から、感染症対策に頭を悩ませてきました。全国的にみても、特に冬季には、インフルエンザ集団感染やノロウイルス食中毒の集団発生などが、少なくない高齢者施設で報告されてきました。

2 高齢者施設と新型コロナウイルス（2020年）

外部からの病原体の持ち込みに極めて弱い高齢者施設を、2019年末から世界中で新型コロナウイルスが襲っています。特に2020年の冬から春、夏にかけての大きな波では、ヨーロッパでも高齢者施設で多くのクラスターが見られ、各国で何万人、という死亡者を数える大きな原因となりました。

日本国内でも、幾つかの高齢者施設でクラスターの報告がありましたが、その数や規模は、ヨーロッパ諸国やアメリカに比してはるかに小さなものでした。今更ですが、基本的な消毒薬や防護具の不足といった厳しい条件の許でも、新型コロナウイルス感染の爆発を防いだ、日本の高齢者施設の力量と関係者の努力には頭が下がります。

また日本では2020年の冬、例年に比してインフルエンザや腸管ウイルス感染の報告が大きく減りました。はからずも、新型コロナ肺炎の流行によって、手洗いやうがいの習慣化や適正な消毒という基本的な感染症対策の徹底により、インフルエンザや他の急性感染症も大きく減少することがわかったのです。

3 新型コロナウイルスのパンデミック（世界的な感染拡大）

20世紀末から多くの新しい感染症（特にウイルス感染症）の発生や拡大が報告されていますが、大きな原因としては2つあげることができます。1つは地球温暖化に代表される気候環境変化で、もう1つは人間の活動する地域の拡大です（もちろん、その背景に環境変化や人口増加の問題があります）。ヒト以外の動物も多くの病原体を保有しており、従来、ヒトと接点のなかった動物の病原体が、偶然ヒト集団に入り込むと、新型コロナウイルスのように、新しい感染症がヒトの間で問題になります。

コロナウイルスでは、従来、風邪の原因となる数種に加え、重い肺炎を起こすウイルスとして、SARSウイルスとMERSウイルスが知られていました。サーズ（SARS、2002-03年）、マーズ（MERS、2013年）では、地域的封じ込めに成功しましたが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、パンデミックとなりました。様々な要因が考えられますが、COVID-19では無症状者や軽症者が多いこと、インフルエンザよりも気道感染しやすいことがあげられるでしょう。感染者の殆どがはっきりした重い症状を示せば、感染経路を追跡しやすく感染源となるヒトの隔離や治療も容易ですが、COVID-19では、移動を止められない無症状者や軽症者が、知らないうちに世界中に拡散させたのでしょう。また、全体的には死亡率がけっして高くないのですが、高齢者や生活習慣病を持っている例では、SARS

に近い死亡率を示すため、世界的に見ても極めて高い感染者数と死亡者数を数えるに至りました。このようなタイプのウイルス感染は、歴史上もあまり例を見ないもので、新型コロナウイルスは、極めて巧妙かつ悪質なウイルスであると言えます。

4 新型コロナウイルスのワクチン

細菌などの病原体と異なり、ウイルスは自分だけの力で増殖することはできません。ウイルスの構造は単純で、短い遺伝子が薄い皮をかぶっているだけと言ってよいのですが、その遺伝子が、感染した人や他の動物の細胞内の物質を利用し、抗原となる蛋白質を作ります。現在日本で認可されているCOVID-19のワクチンは、ヒトに症状を起こさず、効率よく抗原や抗体を作ることができる遺伝子をヒト細胞内に打ち込むというタイプで、従来の発想とは全く異なるタイプです。遺伝情報を伝える核酸にはDNAとRNAの2種類がありますが、ヒト染色体内で安定して存在するのはDNAで（通常、遺伝子と言えばこちらを指します）、RNAは細胞核外で、DNAの遺伝情報を蛋白合成のため伝達します。新型コロナワクチンは、この細胞核外にあるメッセンジャー RNAを接種するわけで、ヒトが細胞核内に持つ安定した遺伝子情報（DNA）に組み込まれることはありません。ですから、一部で科学者（？）が不安をおおる、新型コロナワクチンで、各人が持つ固有の遺伝子情報が書き換えられるという批判は的外れです。

新型コロナウイルスの遺伝子情報は、中国での新型肺炎発生が報告されて数週間のうちに明らかになりました。今後も、遺伝子情報の読み取りが遺伝子ワクチン（RNAワクチン）の開発に即つながるのであれば、ウイルス感染症に対するワクチン開発に要する時間は、短くてすむでしょう。ただ、このタイプのワクチン接種は、新たな遺伝子情報を体内に打ち込むという点では、広義の遺伝子治療に含まれることには、注意を払う必要があるでしょう。

5 新型コロナウイルス感染症の今後と高齢者施設 —オミクロン株の動向は？—

この原稿を書いている最中に、オミクロン株による高齢者施設のクラスターが大阪で発生したとのニュースが、飛び込んできました。オミクロン株拡大のスピードから見て、日本でも市中感染の確認があれば、早晚集団感染の報告が予測されました。ただ、オミクロン株は、従来のデルタ株に比して比較的軽症者が多いとの報告もあります。パンデミックを起こす感染症については、比較的強毒株で感染が始まり、拡大するにつれて弱毒株が優位になっていくのが、原則とされてきました。かつてのスペイン風邪の流行パターンを見ても、ヒト集団が免疫を持つと同時に、ウイルス自体も弱毒化していくことで、現在にも続くインフルエンザウイルスとヒトとの共存の原型ができたとも考えられます。

新型コロナウイルスでも、ワクチン接種の推進で、日本国内のみならず世界中で集団免疫が増すと同時に、弱毒株が優位になっていけば、新型コロナウイルスとヒト集団との間で、微妙な安定が得られるかもしれません。新型コロナウイルスは、従来のウイルス学の常識を破ってきたので、安易な推測はできませんが、インフルエンザウイルスよりも感染力が強いが、重症化の傾向は似た呼吸系ウイルスの1つとして、人間集団に定着する可能性が高いと思われる。そして、社会の中でヒトと新型コロナウイルスが共存しても、社会生活の厳しい制限がなくなる状態が実現できれば、一応のゴールと考えていいでしょう。

オミクロン株の蔓延が、その入り口となる可能性もありますが、まだしばらく流動的な状態が続くとすれば、その間、私達にはどのような対応が求められるのでしょうか。残念ながら、この間少し緩和された高齢者施設での入所者の面会制限などは、また厳しくせざるを得ないかもしれません。ワクチンの第3回接種が順調に進めば、厳しい制限が必要な期間を短くすることはできるかもしれませんが、インフルエンザの最流行期におけるのと同じ位の警戒は、当面の間いつも必要になるのではないのでしょうか。外出時はマスクをつけて人混みを避ける、手洗いやうがいを頻繁に行い、多人数での長時間の会合は避けるといった配慮は、オミクロン株のピーク終了後も必要だと思います。一方、反対側から歩いて来る人が大きな声で話をして咳き込んでいない限り、公園や遊歩道での散歩で感染するとは思えないので、2022年の春以降、状況にあわせてマスクを外し、思い切り外気を吸って運動できるようになることを期待したいと思います。

まだ途上国へのワクチン接種の拡大は遅れていますし、世界的にみるとCOVID-19については、病原体の変異/拡大と集団免疫獲得の微妙なバランスによる収束には、まだ数年かかると考えられます。日本においても、インフルエンザワクチンと新型コロナワクチンを、毎年接種するのが、しばらくの間、特に高齢者施設では求められるかもしれません。この2年間、厳しい条件の許でも、日本の医療福祉の現場では、新型コロナウイルスの感染爆発を防いできました。中でも、最も重症者のクラスターが発生しやすい高齢者施設で、感染爆発を防いだのは、特筆すべきことと考えます。そのことを誇りに、今後も自信を持って感染症対策を続けて頂ければと思います。

企画 I

レポート 【科学的介護情報システム（LIFE）取組みと課題】

今年度より新設された科学的介護情報システム（LIFE）における、各施設の取組みの実態や実施している中で生じた課題等について会員施設を対象にアンケートを実施しました。各施設で生じている課題の共有や今後の業務改善等の一助となれば幸いです。

多くのご意見をいただきましたが、紙面の都合上掲載とならなかった内容もございますがご了承下さい。

アンケート回収数 50 施設

Q 1 電子カルテを導入していますか？

はい・・・15 施設 いいえ・・・35 施設

Q 2 LIFE 関連で算定している加算を教えてください。

入所

加算	施設数
科学的介護推進加算	36
自立支援促進加算	8
かかりつけ医連携薬剤調整加算	3
リハビリテーションマネジメント計画書情報加算	29
褥瘡マネジメント加算	22
栄養マネジメント強化加算	12
排泄支援加算	16
口腔衛生管理加算	5
どれも算定していない	14

通所

加算	施設数
科学的介護推進加算	27
栄養アセスメント加算	8
口腔機能向上加算	6
リハビリテーションマネジメント加算 A（イ）	13
リハビリテーションマネジメント加算 A（ロ）	8
リハビリテーションマネジメント加算 B（イ）	9
リハビリテーションマネジメント加算 B（ロ）	18
どれも算定していない	17

Q 3 LIFE 関連の加算を算定するうえで難しいと感じたケースや課題、その対策があれば教えてください。

※最も意見が多かった、データ入力の手間や提出のスケジュール管理、算定にあたっての体制作りについて掲載しています

【データ入力について】毎月加算を取っている全員分の LIFE 登録をするのがとても大変。基本情報の入力にあたりデータへ移し替えが面倒。入力する項目が多すぎて大変（特にリハビリ関係）。情報提供の必要性は感じるが手間が非常に多い。加算は低く医療との統一情報としてもまだ使えないもどかしさがある。介護ソフトより CSV で LIFE へ取り込むが結局別途記録が必要であり手間。栄養マネジメント加算における管理栄養士の記録業務はかなり負担と感じる。

【データ提出の管理について】データ提出の時の 3 ヶ月や 6 ヶ月に 1 回というスケジュール管理が大変。通常業務に加えて 10 日までに提出できるように準備しなければならないことが難しい。加算ごとに評価期間が違う事とそこに新規や退所がありデータ管理が難しい。入退所などでの提出のタイミングが難しい。

【体制作りについて】多職種で入力を行っていくことの難しさを感じている。業務負担に対する人員の体制が整わない。介護過程の展開と効果的に連携・連動させないと単に報酬を上げるためのものになってしまう。多職種が共同して取り組むシステムの構築も難しい。加算体制が確立していなく、職員の負担に偏りが生じている。入所に関して介護・看護の職員にも記入協力を依頼しているが設問の理解が不十分であり説明が困難。まだ導入の段階であり、今後スタッフ全般への展開に不安がある。



【各課題についての対策】管理栄養士の配置を充実させマネジメント中心の職員を任命している。データ送信用を揃え統一した。各部署共有の LIFE スケジュール管理表を作成し、毎月の各部署 LIFE 担当者が集まるミーティングで提出対象者の確認を行っている。LIFE について現場スタッフに勉強会を開催。各セクションで LIFE 責任者を設け統括との連携を密に図った。

LIFE からのフィードバックの活用事例についての問いに関しては、現段階ではフィードバック内容が各項目の集計値となっていることもあり、「まだ活用できていない」「模索中」という回答が多く寄せられました。一方、「全国データとの比較ができ参考になる」「内容によってはサービス担当者会議等で提示し活用したい」とのご意見もあり、今後、個別でのフィードバックと合わせることで LIFE の目的である、PDCA サイクルの推進とさらなるケアの質の向上を図ることができるのではないかと思います。

ご回答いただいた施設の皆様、お忙しい中ご協力ありがとうございました。

企画 2

令和3年度職種別専門委員会 事業(研修)実績

令和3年度は各種専門委員会と参加会員のご努力により、再開された専門委員会活動がパンデミック前の水準に近づく結果となりました。これは関係者が素養積み上げや資質向上が、平時にもまして必要不可欠であるとの強い意志に基づき、実績としてかたちを示していただいたものです。

専門委員会名	実施年月日	事業(研修)内容
看護・介護 (第1回)	令和3年10月21日	○リモート研修 講師：武田健志（㈱モルテン健康用品事業本部） 内容：褥瘡対策、転倒転落対策 ・参加者 14 施設 50 名
看護・介護 (第2回)★	令和3年11月12日 ～12月10日（計4回）	○リモート研修 講師：矢花 光（リリーこども&スポーツ専門学校教諭） 内容：介護福祉士国家試験対策講座 全4回シリーズ ●令和4年度開催決定 4月募集 目的：有資格者増加により業態（老健）の優位性を確保 ・参加者 6 施設 12 名
支援相談員 (第1回)	令和3年10月22日	○リモート研修 講師：酒井麻由美（㈱リンクアップラボ代表取締役） 内容：介護報酬改定に伴うLIFE 関連加算とデータ活用等 ・参加 32 施設
栄養 (第1回)★	令和3年12月15日	○リモート研修 ●【公益社団法人茨城県栄養士会との共同開催】 講師：公益社団法人茨城県栄養士会講師4名 内容：介護報酬改訂に伴う栄養マネジメント強化加算算定や実践演習（Zoom） ●令和4年度も、（公社）茨城県栄養士会との共同開催を予定（相互連携強化） ・参加 76 名（うち栄養士会会員 29 名）
事務 (第1回)	令和3年6月18日	○リモート研修 講師：山野雅弘氏（全老健老健紀伊の里施設長） 内容：介護報酬改訂に伴う会員施設からのQ & A 回答方式研修 ・参加者 32 施設 32 名
事務 (第2回)	令和3年12月17日	○リモート研修 講師：大岡淳一（行政書士） 内容：円滑なコミュニケーションづくり～もっと居心地の良い職場にするために ・参加者 15 施設 38 名
リハビリテーション (第1回)	令和3年9月10日	○リモート研修 講師：張本浩平（㈱ gene 代表取締役） 内容：生活期におけるリハビリテーションのゴール設定 ・参加者 101 名
リハビリテーション (第2回)	令和3年11月11日	○リモート研修 講師：吉田真由美（言語聴覚士） 内容：生きること 死ぬこと 高次脳機能をベースに考える ・参加者 90 名
リハビリテーション (第3回)	令和4年3月10日 (予定)	○リモート研修 講師：浅川先生（茨城県理学療法士会） 内容：決定次第通知
令和3年度 専門委員会 合同会議	令和4年3月4日 (予定)	○リモート開催（予定） 内容： ①令和3年度事業実績のまとめ ②令和4年度事業計画策定 ③その他

★は今年度より取り組み

少人数ならではの 自立支援を目指して

介護老人保健施設いちご苑は、干し芋の産地ひたちなか市にあり、勝田駅と国営ひたち海浜公園を結ぶ中間地点ほかに立地し、平成7年創業以来26年目を迎えました。定員は入所92名、通所リハビリテーション1日8名の病院併設型運営をしています。

私は、その通所リハビリテーションの介護福祉士主任をしています。要支援1から要介護5までの様々な状態の利用者様がお自宅から通所され、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、介護福祉士、看護師が連携して、専門的リハビリから趣味を生かした個別的ケアを中心にサービス提供しております。令和3年4月介護保険法改正に伴い、利用者様毎の自立支援計画に、家屋の浴槽状況に対応し施設内の個人浴を利用した入浴支援では、送迎時の車中で「今日もよ



医療法人 蔦会 介護老人保健施設 いちご苑
通所リハビリテーション

介護福祉士主任 篠原 貴子

ろしくね」「さっぱりした、ありがとう」の嬉しい声が弾みます。また、将棋、習字、絵、塗り絵など個々の楽しみを継続できる活動や、季節に合った貼り絵など協働作業を通して、平時は無口でも、声かけ合う関係や笑顔が生まれ、従事する私達の大きな励みであり働き続ける魅力にもなっています。

コロナ禍で様々なサービスが制限される中ですが、感染対策を十分に行い、利用者様が「今日も来てよかった」「また行きたい」と思える場所でありたいと思います。そして、少人数ならではの自立支援に目を向け、サービス内容の創出をしながら、地域の介護予防・重度化対策に取り組んで行きたいと思えます。



ONS委員会の取り組み

当施設では、利用者様の食事に関する生活の質の向上、施設スタッフの食支援に対する専門的知識の向上を目的に6年前にONS委員会（Oral Nutrition Swallow=口腔・栄養・嚥下）を立ちあげました。

ONS委員会では、嚥下障害を有する利用者様、食事摂取に問題のある利用者様を対象としたカンファレンスを月2回行っています。また、全利用者様を対象として、口腔内アセスメントを看護師、介護士が中心となり、アセスメントシートに沿って、月1回実施しています。カンファレンスには、医師、看護師、介護士、介護支援専門員、リハビリ職、管理栄養士の多職種が参加しています。それぞれが専門的な視点からアセスメントし、情報を共有して、問題解決に向けて利用者様の個別性を重視した食支援方法などを検討しています。口腔内に問題のある利用者様に



社会福祉法人 輝寿会
介護老人保健施設 はあとぴあ
言語聴覚士 中村 優希子

しては、歯科受診へとつなげています。歯科医、歯科衛生士からは専門的なアドバイスを頂き、日々の口腔ケアの方法へ活かしています。

また、嚥下障害を有する（ペースト食・刻みトロミ食を摂取）利用者様を対象とした食事会も年2回開催しています。お食事は、目で見て香りを感じてもらえるように特殊な加工された食品を活用して提供し、食器も陶器を使用し、会場も季節を感じられるように飾り付けを行います。また、職員による生演奏を企画するなどして、五感でお食事を楽しんでいただけるよう工夫もしています。

これからも多職種が連携して、利用者様一人一人に寄り添った食支援が行えるように、施設スタッフ全体の専門的知識の向上に努めていきたいです。



歌手 城南海さんからのメッセージ



きずき みなみ
城南海さん

祖父母とすごした大切な時間

プロフィール

平成元年 鹿児島県奄美大島生まれ。奄美民謡「シマ唄」をルーツに持つシンガー。

2006年鹿児島市内でシマ唄の歌唱中にスカウト、2009年1月「アイツムギ」でデビュー。

NHKみんなのうたや大河ドラマ「西郷どん」の劇中歌と大河紀行テーマ、ディズニー実写映画『ムーラン』の日本版主題歌「リフレクション」の歌唱などを行う。また、テレビ・ラジオ番組で活躍中。

4月からは「ウタアシビ2022春」全国ツアーがスタートする。

茨城県介護老人保健施設協会の会員施設の皆様、初めまして、城南海（キズキ ミナミ）です。この度はご縁を頂き、機関誌「老健いばらき」に寄稿させて頂くことになりました。どうぞよろしくお願い致します。

私の故郷は鹿児島県にある奄美大島という島です。高校生の時に奄美の民謡「シマ唄」を歌い始め、鹿児島市内の公園でパフォーマンス中にスカウトして頂き、2009年にデビューをしました。

近年ではNHK大河ドラマ「西郷どん」の劇中歌、ディズニー映画の日本版主題歌など歌わせて頂いています。

私がシマ唄を始めた時、一番嬉しかったのは祖父や祖母が喜んでくれたことです。

奄美は“唄島”と呼ばれるほど、みんな歌が大好きなのですが、親戚で集まる時はいつも祖父と祖母が「あの歌を歌って」と沢山リクエストしてくれました。

そして一緒に口ずさんで踊ったり、歌ができた背景や歌詞の意味などを教えてくれました。

お祝いの時も、体を壊して入院した時も（耳元で）、少しでも元気になってくれたらいいなと思い歌ってきました。歌を通して過ごした祖父、祖母との時間は今でも大切な思い出です。

去年は奄美大島、徳之島が世界自然遺産に登録されました。自然はもちろん、歌や言葉などの文化、島の魅力を観光大使として歌手として伝えていきたいです。コロナが落ち着いたら、皆さんも是非遊びにいらしてくださいね。

城南海

※城南海さんからは、本寄稿を通じて、老健施設のみなさまへのエールをいただいております。

サンフラワー東海 (東海村)



●きょうのわんこ、ほんわか“レオくん”

施設で一緒に生活しているレオくんです。「今日はいいお天気だね～」「お昼ごはんおいしかったよ」と話しかけると、「くう～んくう～ん」と答えてくれます。くりくりお目めで見つめられると、思わず笑顔が溢れます。廊下を行き交う利用者様を、毎日優しく見守ってくれているレオくん。みんなの癒しとなっています。

シルバービレッジ (笠間市)



●腕に覚えあり

コロナ禍で様々な活動が制約される中、ご利用者様が楽しみながらリハビリが出来るよう、OTによる集団作業活動で作品作りを行っています。制作した作品はどれも見事な出来栄で、サービスカウンターへ展示していますが、施設内が華やぎ「わあ、素敵！」の声が聞かれ、私達職員も見る度に明るく前向きな気持ちを頂いています。

みんなの広場

ひたちの森ハピネス (日立市)



●縁起の良いマスコット

デイケアの利用者様と「フクロウ」を作りました。「どの色の組み合わせがいいかな～」と、楽しみながら作ったフクロウは色味、目の位置などで様々な表情があってとってもかわいいです。施設の玄関に飾ったので、見るたびほっこりした気分になります。

さくらがわ (桜川市)



●筑波山とひまわり

通所リハビリご利用様が皆さんで協力して作成した作品です。施設から見える筑波山と夏のひまわりをイメージして作りました。ハサミを使う事が苦手な方も多く中で、ちぎり絵となりました。立体感を追及して、ひまわりを毛糸で縁どり、波山にはチラシを使って山の色合いを表現しました。

— 編集後記 —



茨城県鹿嶋市にあるサッカー専用スタジアムであり、鹿島アントラーズのホームグラウンドです。

毎年多くの試合が行われ、多くの感動を生み出しています。2002FIFAワールドカップの試合会場となり、2021年には東京2020オリンピックのサッカーの試合会場となりました。

発行所／一般社団法人 茨城県介護老人保健施設協会
 発行人／老健かすみがうら 大場 正二

編集人／プロベクトガーデンひたちなか
 編集／鹿野苑
 シニア健康センターしおさい
 つくばリハビリテーションセンター
 平成園
 ウイケア

森 田 隆
 熊 坂 裕 吾
 児 島 強
 市 原 健 一
 小 柳 賢 時
 岩 瀬 剛



一般社団法人
 茨城県介護老人保健施設協会
 ホームページ